vinetur

オランダの外食支出、第3四半期に9.5%減

外食の頻度と1回当たりの支出がともに減少。夕食1回の平均支出額は53.79ユーロから51.12ユーロに低下

2026年11月23日（月）



FoodService Instituut Nederlandが11月20日に公表したFoodPulseモニターによると、オランダの消費者による第3四半期の外食・飲料支出は、前年同期に比べて減少した。外食の回数と1回当たりの支出額がともに落ち込んだ。

報告書によると、オランダで家庭外で消費された飲食物への支出は、7月から9月にかけて前年同期比9.5%減となった。このデータは、需要の弱まりを示す兆候が先に見られていたレストラン、カフェなどの外食・飲料市場で、幅広い減速が進んでいることを示している。

第3四半期の主な変化は、外出の頻度が下がっただけでなく、外食1回当たりの支出額も減少したことだ。夕食1回当たりの平均支出額は、前年の53.79ユーロから51.12ユーロへと2.67ユーロ、率にして4.96%下落した。公表された数値に基づく。モニターによれば、金額は当年のユーロで示され

ており、インフレ調整は行われていない。

前年同期比の支出指数は、第2四半期の97.9から第3四半期には90.5へ低下した。前四半期からの下落幅は7.4ポイントだった。同じ基準で累計した指数は94.6となり、同機関によると、前年同期比で支出が5.4%減少したことに相当する。

第3四半期の数値は、第2四半期に見られた傾向からの変化を示している。FoodService Instituut Nederlandによると、第2四半期にはすでに来店回数が減っていたものの、当時は1回当たりの支出額がなお増加していた。第3四半期にはその下支えが失われ、1回当たりの支出額も減少に転じた。

同機関は、この数値を、外食頻度と1回当たりの支出額が同時に弱まった証拠と説明した。来店客数が減っても、客単価の上昇で補えることがある業界にとって、これは重要な変化だ。7月から9月にかけては、両方の指標が同時に圧力を受けていたことがデータに表れている。

FoodService Instituut Nederlandは、猛暑が第3四半期の落ち込みに影響した可能性もあるとしたが、その影響の大きさは数値化していない。同団体は、天候に減少分の具体的な割合を割り当てず、消費者の活動全般の縮小と並ぶ、あくまで可能性のある要因として挙げた。

このデータは、オランダの外食市場における支出と消費頻度を追跡する、2026年第3四半期のFoodPulseモニターの一環として公表された。年が晩夏に差しかかるにつれ、同業界への圧力が強まったことを結果は示唆している。オランダの消費者は外食の頻度を減らし、外食する際に支払う金額も抑えた。